写真1　築土神社社殿（平成6年建替え）

近隣史跡の紹介

築土神社と狛犬

築土神社（つくどじんじゃ）は、天慶3年（940年）に藤原秀郷らの手で討たれた平将門公の首を首桶に納めて密かに持ち去り、現在の大手町周辺の観音堂に祭って津久戸大明神と称したことがはじまりといわれています。文明10年（1478年）には、江戸城を築城したことで有名な太田道灌が江戸城北西に鎮守として社殿を造営しました。旧称では、田安明神・江戸明神とも呼ばれ、山王日枝、神田明神とともに江戸三社の一つに数えられ、江戸庶民から崇敬されていました。その後、江戸城の整備などにより、竹橋、飯田橋、神楽坂付近へと移り、昭和29年現在の九段北に至るまで、6回もの遷座を数えます。

境内には安永9年（1780年）に奉納された千代田区内最古の狛犬（獅子・狛犬）があり、区の有形民俗文化財に指定されています。この狛犬は「宝珠型」の体を成していますが、一般的な、「阿形（開口）の獅子（頭に宝珠）・吽形（閉口）の狛犬（頭に角）」とは異なり、宝珠と角が逆になっています。このスタイルが江戸時代中期の職人のための絵手本「諸職画鏡（しょしょくえかがみ）」寛政6年（1794年）に描かれたために、これを基にした石工によって同様の狛犬が明治時代まで作られたそうです。

絵手本より先に製作された築土神社の狛犬。そのモデルになったのでしょうか？

参考文献

築土神社
URL　http://www.tsukudo.jp/
（一社）千代田区観光協会
URL　http://www.kanko-chiyoda.jp/
国立国会図書館デジタルコレクション「諸職画譜」
URL　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533772
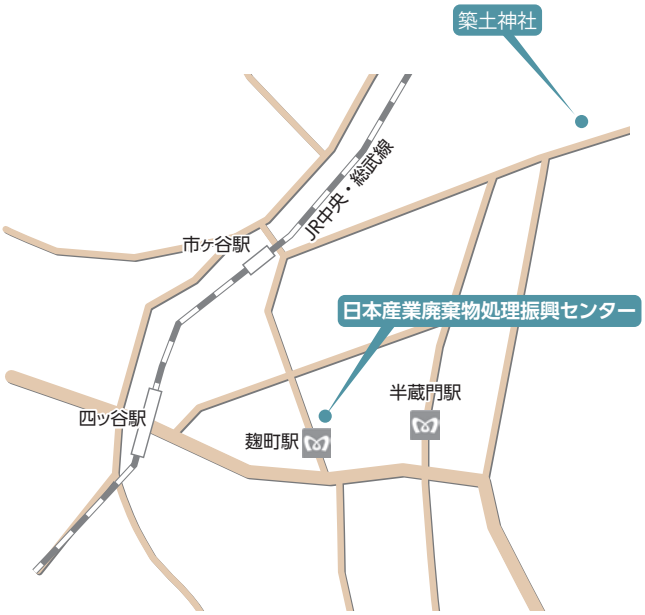
写真2　狛犬（左：獅子（宝珠）　右：狛犬（角））